

大竹 喜久 研究室 (障害児教育実践学)



教授

Ph.D (Special

専門分野・研究テーマ

「子供と一緒に見る」ことの教育実践学的考察：「子供と一緒に見る」が成立することは、子供が育ち教師も育つ上で欠かせない現象です。教師と子供とのあいだで「一緒に見る」が成立するためには、教材を前にした教師の身体は、子供の思いを受け止めるための器となっていることが求められます。教師の身体が器となって子供の思いを受け止めるとき、教師の身体は子供の身体と重なり合い、その上で表出される教師の誘いは、子供の誘いでもあるような現象が生まれます。さらに、提示した教材からの語りを受け止め、それとも融合しながら教師の誘いが表出されるといった、いわば「3重の誘い」(教師・子供・教材からの誘い)と呼べるような教師の誘いが実践の中で生じているように思います。そのような現象をエピソード記述の手法をかりながら、言葉にしていきたいと思います。

卒業論文・修士論文・博士論文の主な研究テーマ

卒業論文

- ・知的障害特別支援学校授業実践のアドラー心理学的考察
- ・通常の学級における包摂概念の再検討：障害のある子どもと学級集団との「あいだ」に焦点をあてて

修士論文

- ・作品との対話を意識した国語科古典教育の授業構想

博士論文

- ・自閉症スペクトラム障害児の特別な興味を活用した教育的介入及びその効果に影響を与える要因に関する研究ービデオヒーローモデリングを中心として



パンデミック下での Cheatham 先生と Amilivia 先生とのオンライン合同セミナー



カンザス研修：Cheatham 先生宅でのディナータイム



ハノイ研修：サンライズ・インクルーシブセンターの子供と先生たち



ハノイ研修：サンライズ・インクルーシブセンターの授業参観

学生へのメッセージ

何かのためにではなく、何になるかわからないけれども、今、目の前にあることにひたすら取り組み続けていると、日常の中に、今まで気がつかなかった新たな世界が見えてきます。非合理的なものの中にこそ合理性があるということをつくづく思います。身体の奥底から湧き上がってくる思いを大切に、まわりのもとのとの融合にも思いを馳せつつ、一緒に歩んでいきましょう。

研究室の活動

- ①「子供が『私は私』から、『私は私たち』に変わる時とはどのような時か」「この世界をゆっくり、じっくりわかっていくからこそ見える世界とはどのような世界か」「子供の思いを受け止めつつ伝える時、子供と教師のあいだにはどのようなことが生じているか」等、大きなテーマを持ちながら関与観察を行い、観察者の意識体験を言葉で表した上で、なぜその世界が切り出されたのかについて考察し、エピソード記述を作成します。グループでエピソード記述を何度も読み返し、考察を行う中で、問いの洗練化とそれについての答えを探っていきます。
- ②カンザス研修やハノイ研修等、私が私らしくなれるフィールドへ学生を誘い、遠く離れた世界においても、私たちと同じように子供を大切に育てている教師と共に学ぶ「国際的学習共同体 (international learning community)」活動をしています。COVID-19 パンデミック下では、オンラインで国際セミナーや授業検討会を行っています。